

令和3年度 第1回 旭区教育会議 会議録

- 1 開催日時 令和4年1月19日（水） 18時30分から19時55分まで
- 2 開催場所 旭区役所3階 第2・3会議室
- 3 出席者
(委員)
坂井 幹 議長、清家 嘉子 副議長、池田 清子 委員、笹田 浩志 委員、
林 芳子 委員、向井 治夫 委員
(学校)
松下 宣幸 古市小学校長、辰巳 千佳子 旭陽中学校長
(教育委員会事務局)
松本 桂 指導主事
(旭区役所)
東中 秀成 旭区担当教育次長、小林 卓示 旭区教育担当部長、
山田 浩美 旭区教育担当課長、松原 俊幸 市民協働課長、
大前 孝則 防災安全担当課長、佐野 雅哉 保健・子育て支援担当課長、
戸田 裕之 生活支援担当課長

4 議事

- 1 開会
- 2 副議長の選出について
- 3 議題
 - (1) 区の教育等関係事業について
 - ・令和3年度の取組状況
 - ・令和4年度の取組予定
 - (2) その他

5 議事内容

○田窪係長

只今より令和3年度第1回旭区教育会議を開会いたします。

本日はご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。私は本日の司会を務めさせていただきます、教育政策課担当係長の田窪でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日の教育会議はコロナ禍を前提として、換気やアクリルパーテーションの設置など、密を避けるよう留意させていただいております。本日の運営において机・椅子・マイク等の消毒等十分な配慮を行ってまいりますとともに会議時間が長時間とならないように効率的に進めさせていただきます。委員の皆様にはマスクの着用や手指の消毒、入口での検温等ご理解ご協力賜りありがとうございます。また、会議中、マイクを使用される場合は配付させていただいておりますビニール手袋をご使用いただきますようお願いいたします。

まず当会議は公開としておりまして、後日会議録を公開することとしております。そのため会議を録音させて頂いておりますので、マイクを使用してのご発言にご協力をお願いしたいと思います。本日お配りしております資料は、次第に記載の通り資料1～5および参考資料1となっております。

委員等の皆様および区役所側の出席者につきましては名簿並びに配席図をお配りしておりますので、個々のご紹介は省略させていただき、今回新たに委員にご就任頂いた方のみ、お名前をご紹介させていただきます。

旭区PTA協議会会長に就いておられます笹田委員です。

○笹田委員

よろしく申し上げます。

○田窪係長

なお、林正教委員におかれましては、ご都合により欠席となっております。それでは会議開催にあたりまして、旭区担当教育次長の東中よりご挨拶申し上げます。

○東中教育次長

改めまして、区長の東中でございます。兼務で教育次長という職名を拝命致しております。区長兼教育次長と言う立場から本日はこの場を一緒に参加させていただいております。

寒い中お越しいただきまして大変ありがとうございます。重ねて御礼を申し上げます。本日は教育施策という観点から3年度の取り組みの状況、ご報告とそれから4年度の取り組みの予定というところをお示しをさせていただきまして、特に区民の皆様方の忌憚のないご意見をいただけたら、大変うれしく存じます。

そしてまた今日は中学校、小学校の幹事の校長先生、辰巳先生や松下先生にもお越しを賜っております。お忙しい中たいへんありがとうございます。

この旭区は地域の皆様方の暖かい見守りと、それから特に小学校さん中学校さん、義務教育段階での暖かい学校側からの子どもたちへのご指導というところに実感をいたしております。そういう実感を私どもも共有させていただきながら、生徒・児童にとつ

てよかれという施策を、いわゆる通常の授業とはちょっと違う観点から私ども様々なチャレンジをしているところでございます。

当区の生徒児童にとって、より良い未来が開かれますよう、私ども、そう思いながら取り組んでおります。どうぞご理解いただけますと大変うれしく存じます。それからいま、コロナにつきまして少しこの場をお借りいたしましてご報告ご説明を申し上げたいと思います。

3回目のワクチンにつきましては今後徐々に皆様方のお手元に接種券が送付されてまいります。大阪市としても集団接種会場、城見ホールの中に設けておりますし、来月からは市内の方に自衛隊さんの集団接種会場も設けられてまいります。それからまたご近所のお医者様の方でも個別の接種という形でしていただいております。そういったところから3回目のワクチンにつきましても皆様方、個々のご意思のご判断の下ではあるんですけども、やはりブースター接種によりまして抗体が増えるという調査結果というのは世界的に共通のものとなってございますので、そのへんご理解をいただきましたらと存じます。

そして陽性の数でございますけども、大阪府内で昨日が5000人超、今日が6000人にのぼるという報道が既に先行してされております。この大阪市内におきましても2000人近い陽性の数が出てございます。当区この旭区におきましても日々かなりの数が出ておりますし、小学校さん中学校さんにおかれましても、やはり生徒さんや教職員さんの方で陽性が出られて、随時の休校とか、あるいは学級閉鎖というようなところをかなり臨機応変にご判断をいただいているという状態でございます。

そういう中で先ほど京阪神の3知事のモニタリング会議というのがもたれまして、まん防についてどうなのかということも話し合われたとのことですが、京阪神についてはもうしばらく様子を見ようというふうに聞いてございます。

このコロナで、マスクと消毒と、それからあまり大きな声でお話にならない、適切な距離を保っていただくと、そういった基本がとにかく感染予防第一でございますので、何卒マスク・消毒、この辺を皆様方の生活の上でもお仕事の上でも、どうかご留意いただけたらと思います。

まだもう少しこの波が引くまで、どうかお力添えをいただきたいと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。

それではこの後、順次わたくしども課長の方からご説明させていただきます。その後いろいろ意見交換をさせていただけたらと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○田窪係長

議事に入らせていただく前に本会議の副議長に就任いただいていた飯田さんが解任となりましたので、旭区教育会議開催要綱第6条第1項に基づき、委員の皆様方の互選

により新たな副議長の選出をお願いしたいと存じます。ご意見ございませんでしょうか。

○坂井議長

失礼いたします。坂井でございます。

前は旭区PTA協議会の飯田様をお願いしていたんですけども、今回この教育会議の2期目を務めていらっしゃるって区政会議の委員もされて、民生児童委員もされている清家さんをお願いしてはどうかと思うんですけどいかがでしょうか。

○田窪係長

ただ今、坂井議長より清家委員をお願いしてはどうですかというご意見がございましたけれども、他にご意見ございませんでしょうか。

特にご意見ないようですので、清家委員をお願いすることに御異議ございませんでしょうか。

異議がないようですので、清家委員に副議長をお願いしたいと思います。清家副議長は前の席に移動をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

それでは清家副議長、一言ごあいさつをお願いいたします。

○清家副議長

皆さんこんばんは。古市地区の民生委員児童委員協議会の委員長やはぐくみネットのコーディネーター、今市中学校の学校協議会の委員などをしております清家と申します。皆さんと一緒に旭区の教育がより良くなるように意見交換できたらと思っていますので、よろしく願いいたします。

○田窪係長

ありがとうございました。それではこれより議題に入らせていただきますが、以降の議事進行につきましては坂井議長をお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○坂井議長

失礼いたします。まず先ほど清家さんを推薦させていただいたんですけど、改めまして前年度に引き続き議長を務めさせていただきます坂井幹でございます。よろしく願い申し上げます。

先ほど区長のお話にもありましたが、非常にオミクロンの感染拡大が来て、教育関係、学校関係、行政、各団体、各関係機関、本当に多大なるご苦労ご尽力をされていることとお察しいたします。その中で本日お忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。約1時間なんですけれども、感染のこともありますので、出来るだけ予定通

りスムーズに進めていきたいと思ひます。なにぶん不慣れな進行でございますので、皆様のご協力をお借りいたしまして円滑に会を進めていきたいと思ひます。どうぞご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

すみません、座って進めさせていただきます。失礼いたします。

そうしましたら、早速、議題の方に入らせていただきます。次第の方の1番ということで、区の教育等関係事業について先ほどお話にもありました令和3年度の取組状況と合わせて一緒に4年度もご報告ということでよろしいですか。そちらの方すみません、事務局の方からご説明お願ひしたいと思ひます。

○山田課長

皆さんこんばんは。旭区の教育担当課長の山田です。いつも大変お世話になりありがとうございます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。私の方から議題1の旭区の教育等関係事業につきまして、お配りしております資料1ならびに参考資料1についてご説明させていただきます。座らせていただひてご説明させていただきます。

それではまず初めに資料1をご覧ください。こちらの資料は一番上の左の端から対象者ごとに令和3年度の事業名ならびに事業概要予算等を記載しております。その隣に令和4年度案の事業名を記載しております。また区役所の担当、備考欄には予算の枠を記載したものとなっております。3年度の事業名欄で⑦⑧につきまして太字で記載させて頂いてありますが、この事業につきましては3年度の新規事業として実施しているもので、それぞれ別途資料2、資料3をお付けしております。

続きまして4年度の事業案の欄で②⑦⑧⑪⑫⑬を太字で記載しておりますが、こちらは4年度の新規事業あるいは変更等を予定している事業になります。②には資料4、⑪⑫には資料5を別途お付けしております。この後①～⑯の事業につきまして3年度の事業概要や実施状況4年度案について番号順に別添資料も含めまして、各担当課長よりご説明させていただきます。なお、④⑨⑩の色で塗りつぶしている欄がありますが、こちらの事業につきましては局所管事業で区CM事業として実施している事業になりますので、本日この場でのご説明は省略させていただきます。

また4年度の予算案につきましては、現在予算要求中でございますので記載いたしておりませんが、概ね3年度と同額を予定しております。

続きまして参考資料1をご覧ください。こちらの資料は昨年11月に教育会議を開催させていただきましたが、それ以降の旭区区政会議で区政会議委員から頂いた主な意見を記載しております。学力向上や防災教育に関することについてご意見をいただひております。ご意見をいただひた時にお答えした区の考え方を記載しております。現在お答えさせていただいた方向で進めさせていただひております。ご参考にお配りしておりますのでご覧いただければと存じます。資料のご説明は以上となります。それでは①から順次、担当課長からご説明させていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○佐野課長

本当に大変な時期にお集まりいただきましてありがとうございます。また学校におきましてはコロナの感染爆発が起こっていきまして、色々ご協力いただいていますことに感謝申し上げます。ありがとうございます。それでは次第に沿って資料1で説明させていただきます。

①は公立幼稚園児を対象とした発達障害サポート事業です。これは元々、小中もあり両方を全部、教育委員会でやっていたものをある時から区役所の業務になって下りてきましたが、区役所の管轄では馴染まないということで、小中については教育委員会がこの事業を昨年度から引き上げております。ただ幼稚園に関しては教育委員会ではなくこども青少年局の管轄になりますので区役所に残った事業です。当区では1か所だけ市立幼稚園があります。この事業は何かといいますと野外活動に関するサポートでありまして、校内ではなくて野外活動に行くときに電車に乗ったりした時に危ないとか、多動性の方とか衝動性のある子があれば危ないということで先生だけでは見切れないということで、サポートする人が必要ということで作ったものです。ただし、それまではやっていたのですがコロナ禍になりまして、園として外部の者を入れないという方針が生まれて、今年も実施出来ずにあります。ただ、いつコロナが収束するかはわからないということで予算上7万円を計上しております。

令和4年度も同額を計上して予算要求しています。

○山田課長

続きまして旭区教育担当課長の山田でございます。資料1の②から⑦につきまして続けてご説明させていただきます。まず②をご覧ください。児童の学力・運動能力等向上サポート事業です。3年度は小学4年生、5年生を対象に学力分析機能付き単元テストの実施や運動能力向上サポート事業を実施しております。

現在1人1台パソコンが導入されましてデジタルドリル等も導入されておりますので4年度につきましては、4年度のところをご覧いただきたいのですが、学力分析機能付き単元テストを終了とし、新たにプログラミング体験学習の導入を検討しております。プログラミング体験学習につきましては、資料4をご覧いただきたいと思っております。

よろしいでしょうか。こちらの資料4には事業の目的や内容を記載させていただいておりますが、目的といたしましては2020年度から小学校で必修となったプログラミング教育の支援を行うことで児童の学力向上等を目指して実施していくものです。内容は現在調整中ですが旭区にある大阪工業大学と連携いたしましてプログラミングに関する専門的な経験技術を持つ工学部の先生に小学校でプログラミングの授業を行っていただくことや、教科書に準拠したプログラミング実験セットなどを希望する学校へ配付することを予定しております。また授業の具体的な内容といたしましては、小学校6

年生を対象に理科の授業で各学級ごとに1時限から2時限の授業をプログラミングについての座学やプログラミング体験などをご指導いただく方向で小学校や大学の先生のご意見をお聞きしながら調整しているところでございます。また、資料1に戻っていただいて、②の児童の学力・運動能力サポート向上事業の運動能力向上サポート事業につきましては、4年度も継続して実施する予定でございます。

続きまして③の学力アップアシスト事業です。

この事業は小学生を対象に放課後の空き教室を活用して指導員を配置し、学園、学習支援を行うものです。

続きまして⑤の旭ベーシックサポート事業についてです。この事業は中学生を対象に放課後の空き教室を活用して、学習、復習のサポートを行う事業となっております。

続きまして⑥の民間事業者を活用した課外事業、旭塾についてでございます。こちらの事業は中学校4校で放課後、民間事業者が塾を運営しているものとなります。ただいまご説明をさせていただきました③⑤⑥につきましては、4年度につきましても3年度に引き続き実施を予定いたしております。

続きまして⑦の旭区命の教育プログラム「リアルケアベビー体験教室」事業です。こちらにつきましては資料2をご覧ください。こちらの事業は3年度の新規事業となっております。資料2に目的や内容、実績等を記載しております。目的は命の大切さなどを学ぶとともにAIを搭載した本当の赤ちゃんのように泣き出す赤ちゃん人形を活用して、授乳・抱っこ・おむつ替えなどの体験学習により赤ちゃんに対する適切な行為を学び、将来の子育てにおいて赤ちゃんへの虐待防止につなげることを目的に実施しております。内容は旭区内の大阪市立中学1年生を対象に、講師に聖バルナバ病院の助産師をお招きして思春期や命の誕生についての講座や赤ちゃん人形を活用した子育ての体験教室を行っております。

昨年度に、学校に希望の日程をお聞きしてございまして、その希望通りの日程で事業を実施いたしております。資料2の5の実績のところに記載しておりますが、旭陽中学校・今市中学校・旭東中学校では、既に事業の方を実施いたしました。またあと1校、大宮中学校につきましては、資料2の6のその他のところに記載しておりますが、ご希望が2月でしたので、来月の実施を予定しております。資料2の5の実績に記載のとおり、事業実施後、それぞれの学校でアンケートを実施していただきましたが、いずれも肯定的な回答を多くいただくことができました。アンケートの①の自分の将来に役立つと思うという内容につきましては、旭区の事業指標にしてございまして、目標を80%以上としてございましたが、現段階におきましては目標を上回る結果となっております。

次のこの資料2の次のページはプレス発表の資料でございますけれども、このAIを搭載した赤ちゃん人形を活用しての事業は、市内の中学校で初めての開催でしたので、プレス発表をさせていただきました。プレス発表後、テレビや新聞記事等で取り上げていただき、その資料もこのうしろにおつけしておりますので、またご覧いただきたいと思いま

す。テレビの取材もありまして、当日NHKの夕方のニュースで放映していただいたものがございますので、今から流しますので、前のテレビをご覧いただきたいと思います。お願いします。

○VTR

●アナウンサー

赤ちゃん型ロボットを使って中学生が子育てを体験する授業が行われました。この授業は大阪旭区の旭陽中学校で総合学習として行われ、1年生の生徒およそ190人が参加しました。

はじめに講師の助産師が中学生でも妊娠する可能性があることを説明した上で、子育ての最中は赤ちゃんが泣きやまず親に負担がかかることで虐待につながるケースもあると紹介しました。この後生徒たちは、赤ちゃん型のロボットを使ってミルクをあげたり、おむつを交換するなどして子育てを疑似体験しました。ロボットには間違った抱き方をした時や、おむつを交換してほしいときに泣き出したりするAIが搭載されていて、生徒たちは赤ちゃんの面倒を見ることのやりがいと難しさを体感していました。

●生徒

親から育てるのはすごい大変だったっていうことは、よく聞いていたので、こんなに厳しいとは思わなかったです。

●辰巳校長先生

子どもを育てるって言うことは、責任がとても重いことであり途中で投げ出すわけにはいかないことでもあるけれども、「かわいいな」とか、「笑ってくれたら嬉しかったな」とかというような、喜びの部分を感じてくれたらいいなと思います。

○山田課長

ニュースは以上でございます。辰巳校長先生、大変お世話になりありがとうございました。

資料の1の⑦の4年度の欄でございますけれど、4年度につきましては現在検討中ではございますけれど、学校のご要望をお聞きしながら進めてまいりたいと考えております。担当の窓口の方はそこに記載させていただいておりますが、子育て支援担当を予定しておりますので、担当課長からご説明をさせていただきます。

○佐野課長

もともと松井市長が市長に就任した時に、区役所行政で一番の課題は児童虐待という

ことで。区長に考えさせているという話の中で、当時、私が生野区の活動を視察して、小学校から命の教育というのをやってまして、その授業を受けた生徒たちがちょうどその頃に中学校に上がってくということで中学校でもやるということで、その内容を含めて、市長に7つのアジェンダを提案してその中の一つに壮大な授業を提案しましたが、全体としては反映されなかったのですが、ある時、前区長が私が提案した中身の一部としてこういうのをやりたいと。リアルケアベビーがあるということで見せてもらったのですが、保健師と私たち保健担当では、正直、これではだめだと思ってました。で、教員の担当である企画調整担当でやることになり、正直、これだけ評価が出るとは私は思ってなかったです。

実際、児童虐待対策を、我々ずっとやってきていますが、若年妊婦の特定妊婦が最近、かなり多くなってきました。家庭環境とか育ってきた経緯の中で、やはりこれは性教育も含めて、しっかりやっていかなければと、いちごっこでとてもじゃないけれどもこのままではいつまで経っても解決にはならず、根本的な問題として義務教育の中でカリキュラムも含めて考えていこうと思ってました。一方でカリキュラムは基本的に学校が決めることであり、行政の押し付けは絶対にしてはならないことだとも思っていました。学校は学校側のプロジェクトがあって、学校の単位っていうものは、やはり我々が考えているほど柔軟性がないと言ったら失礼ですが、今はコロナ禍の中で休学もあったりし授業が恐らく遅れていると思っています。その中で時間をとって割いてまでできることはちょっと難しいとも思っています。そういうことも含めて子育て体験教室って名付けているんですが、我々行政の側が良かれと思って結局、学校現場の意見を聞かずに良いものだからやってくれっていうのでは、絶対に成り立たないと思っています。やっぱり我々が考えることが陳腐化されたりとか学校現場の実態を聞かないとわからないので、ここはちょっと次の開催までに。結論は、各学校のニーズを取り入れながら、やっていこうと考えています。リアルケアベビーが、これだけ好評があって1年生がすごく目を輝かしていたと区長から聞きまして、これを取り入れていくのも良いとは思いますが、その辺は学校側のニーズに合わせた形で1年2年3年と組み立てていかれてる中での位置づけでやっていきたいと思っています。詳しくはまた次の会議では出てくると思います。よろしくお願いします。

○東中区長

少し補足をさせていただきます。

役所の中の建て付けの話なんですけども、企画課長は教育を兼務してまして学校さんとの教育的な関わりで、佐野課長は保健で、ですから各学校さんとの関わりのチャンネルが違います。で、そうなるやはり授業の中での組み立てが少し変わってまいります。というところで、今回はいま報道で辰巳先生にもインタビューを受けていただいていたけれども、総合教育的な観点で今回はA I搭載の赤ちゃん人形を使った虐待防止の

命の大切さを学ぼうということで、今年は展開をいたしました。で、来年度はもう少し保健的なかわりに振ってもいいのかなど。ただそこは学校さんのいろんなお考えがありだと思しますので、総合教育的なチャンネルがいいのか、保健事業的なチャンネルがいいのか、その辺をまたご相談させていただきながら、いずれにしてもせっかくいい取り組みですので子供たちにとって良かれと言う所で来年度も、なんとか続けさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

○大前課長

続きまして、すみません。防災安全担当課長の大前でございます。いつもお世話になります。よろしくお願い致します。私の方からは防災教育プログラムの、旭区防災マスター育成事業についてご説明させていただきます。座らせていただいてご説明させていただきます。資料の3をご覧ください。旭区では災害に備え命を守ることを最優先事項としまして、ご近所精神による自助力・共助力の向上に重点を置いた取り組みを進めておりまして、若い時から防災意識を持つことにより地域の防災力の向上につながると考えまして、特に中学生につきましては地域に根差しており、貴重な防災の担い手となりうることから中学生に対する防災教育を行って、防災への関心意識を深めることを目的としまして本事業を今年度から実施させていただいております。具体的な内容につきましては、昨年度、令和2年度に各学校、生徒、保護者さんにご協力をいただいて実施させていただきました防災意識に関するアンケート調査の結果をもとに、大阪市立大学と連携しまして、いくつかの防災教育プラン、プログラムを作成いたしまして各学校さんと今年度、日程または受講対象の学年などをご相談の上実施しております。既に各学校につきましては日程調整を行っており、11月に旭陽中学校、大宮中学校の2校で実施させていただいております。今市中学校と旭東中学校につきましては今月と来月に実施を予定しております。プログラムの内容につきましては防災意識アンケートの結果をと、また防災に関する基礎知識を市立大学の先生等にご説明していただいた後に安全な住環境を考えようや、非常時に非常用持ち出し袋を作ろうなど、一方的な講義方式ではなくて、参加型防災のワークショップを実施しております。

防災教育プログラムの実施後につきましては、再度アンケート調査を実施させていただいて、次年度の防災教育プログラムの更新につなげていきたいと考えております。ちなみに旭陽中学校では3学年、全学年で実施をさせていただきました。大宮中学校では、1年生全員、3クラスで実施させていただきました。令和4年度につきましても引き続き継続して授業を実施してまいりたいと考えております。ただ事業名につきましては、ちょっと令和3年度長かったもので、令和4年度につきましては旭区防災教育事業ということで事業名を変更させていただいております。以上でございます。

○戸田課長

生活支援担当の戸田と申します、よろしく申し上げます。資料1番の⑪⑫について、ご説明させていただきます。座らせていただきます。

生活支援担当では、これまで経済的な理由をはじめとして様々な家庭要因によって学習環境や生活習慣を十分に身に着けることが困難な中高生に対しまして、家族以外の人たちと触れ合う居場所において進学を目指した学習支援や調理実習・社会見学を通じたコミュニケーション能力の向上や生活力の獲得を支援する、あさひ学び舎事業を実施しております。

また様々な職業人と直に接して、それぞれの持つ職業観や実際の職場関係に触れることを通じて自立心や自尊心、自己肯定感を育み、自らの将来像を考える力や生き抜く力を養成を目的として中高生自立はぐくみ事業、このふたつの事業を展開してまいりました。今年度、令和3年度につきましては、あさひ学び舎事業につきまして新型コロナウイルス感染拡大の影響もありまして学習支援の実施は可能ではありましたが、調理実習やコミュニケーショントレーニング、体験学習などの実施が困難でありまして、一時期感染状況が下げ止まりとなりましたが、その時に再開も検討を行ってきたところなんですけれども、再度感染が著しくなったことから今年度については実施は困難であると考えております。

登録者につきまして資料5の裏面をご参考ください。(1)登録者数の令和2年度と令和3年度を比べていただきましたら、令和2年度の43名から32名に減少しております。特に今年度につきましては、新規登録者が1名と留まっております。これにつきましては通常生活保護のケースワーカーが年度当初にこの学び舎事業について色々と宣伝をして活用するように活用勧奨・利用勧奨を進めておったところなんですけれども、新型コロナウイルスの関係で家庭訪問が出来ない状況になっておりましたので、今年度についてはなかなか利用勧奨が進まず、これが原因なのかなというふうに考えております。

また中高生自立育み事業につきましても新型コロナウイルスの影響を大きく受けまして、予定していた講座7回のうち3回は実施できましたが、残りについては今後の動向を見て検討をする必要があります。中高生自立育み事業にしまして、現在のところ3月29日にはですね、区内の中高生を対象に大阪府立東大阪高等技術専門学校の見学バスツアーを予定しております。2月の広報誌にも掲載されますがこの場をもって報告させていただきます。さて今年度におきましては、コロナの影響により2つの事業は大きな支障が起きました。今後はこうした影響も想定して事業設定をする必要があると考えております。またそれぞれが独立した事業であったために部分的な支援、つまり点の関わりにとどまっております、一過性の支援となっておりましたので、学び舎事業においても育み事業においても高校生の参加が少ない状況となっております。さらには高校生一人一人の現状や進路等の確認も十二分には行えていない状態だったのではないかなと考えております。

そこで令和4年度につきましては、これまでの課題をそれぞれの事業の特徴である学

習支援と自立支援をバランスよく支援するため、2つの事業を統合した、あさひ育み学び舎事業として新たに展開することとなりました。これが資料1の右側に書いてある、あさひ育み学び舎事業となっております。資料5の表側をご覧ください。あさひ学び舎事業における学習支援、自立育み事業における自立支援、この双方を統合拡充した、あさひ育み学び舎事業として展開を行います。これまでの点の関わりから中高一貫した長期的な支援、つまり線の関わりとすることができ、これまでの事業の特徴がより効果的に発揮できるものと考えております。また対象者におきましても、今までの対象者から不登校などの将来的な経済不安のある方も対象とする予定としております。あさひ育み学び舎事業においては中高生が安心して継続的に相談できる環境いわゆる居場所において学習支援と自立支援の双方による一人一人に寄り添った継続的な支援によって自立感を育み社会的自立を促すような狙いがあります。安心・自由な居場所が必要な中学生高校生はぜひ本事業につながってもらいたいと思っております。そのためにもこれまで以上に小中学校や関連事業と共に連携し、広く事業周知を行っていく予定としてまいります。以上です。

○佐野課長

はい、続きまして⑬子ども食堂支援事業です。これはもともとこどもの貧困対策ということで重点予算として区の経費ではなくて、特別に予算を組んで事業提案をしてやってきたものです。それが4年間経ちまして一定成果が出たということで重点事業から、重点事業というのは特別予算を組んでいますので、一定成果があればその事業には適用しないということなので、区長自由経費として区の予算として今年度から実施しています。子ども食堂ですが、今から5年前までは3か所で、それが5か所になって今年度に12か所になりました。いわゆる10校区・小学校区を越えた広がりを持っています。それで、子ども食堂支援というのは、後方支援です。子ども食堂というのはどうしても貧困というイメージがついてまとうため、「そんなところ行ったらあかん、あんなところに行ったらあかん」という偏見とかもありますので、そういった偏見をなくすために役所としてネットワークを支援し、ネットワークを作りながら支援をして、おこがましいけれども役所が認めている事業、公として認知している事業として、誰もが気軽に参加できるように周知して皆さんにやっていただいています。子ども食堂12か所は全部方式もやり方も違います。その中で学習支援の予算として42万円を計上しています。例えば学校教職員が採用の応募が少ないということもありまして、教職員に対する試験の優遇、ボランティアを30時間やれば加点制度というのがあります。それにも関わっています。次代の教師、教育になる方につきまして、区役所で募集して各子ども食堂に学習支援員として派遣しております。

来年度につきましては名前を変更します。今、子ども食堂支援事業という名前ですが区役所が、直接何か支援しているように思われますので、実際は、ネットワークを中心

にやっています、例えば寄付の申し入れとかがありますが、それは区役所に来て区役所がネットワーク会議、2か月に1回開催していますが、日頃からLINEでネットワークでやりとりもしていますので、そこに募集をかけたとか、そういう後方支援をやっています。それと学習支援を混ぜた形でより現実に近い名前に変えました。以上です。予算は同等を要望しております。

○松原課長

失礼いたします。市民協働課長の松原です。どうぞよろしく願いいたします。

私からは⑭⑮⑯の事業について説明いたします。座らせていただきます。⑭小学校区教育協議会、それから⑮生涯学習ルーム事業、⑯学校体育施設開放事業、この3つでございますけども、皆さんもご承知の事業だと思いますので、詳細は省略いたしますが、教育コミュニティづくり、学校教育の支障のない範囲で学校体育館、施設を開放し学びやスポーツを通じたコミュニティづくりに寄与する事業でございます。昨年度今年度とコロナ禍の下で事業の実施が大変難しい状況がございましたけれども、学校のご協力によりまして、ぼちぼちとですけれども再開をしております。ありがとうございます。今後感染状況に応じた実施を進めて参りたいと思っております。来年度につきましても今年度と同様の事業実施を予定しております。以上でございます。

○坂井議長

はい、区役所の皆様、ご説明どうもありがとうございました。短い時間で端的にご説明いただきまして、もっともっと本当は聞きたいところではあるんですけども、なにぶん限られた時間ですので、区役所からの説明は以上とさせていただきます、今のことに関して、ご質問ご意見等を委員の皆様でお伺いしたいと思います。発言の方は必ず、手を挙げた後お名前を言っていただけたらと思います。どうぞよろしく願いいたします。何かございませんでしょうか。

○笹田委員

すみません。旭区PTA協議会の会長をさせていただきます笹田と言います。よろしく願いします。とてもいい事業を開催していただいて、子どもたちのためにもありがとうございます。まず言わせていただきます。

例えばこの各事業、子どもたちのために色々やっただけしているんですけども、実を言うと何をやっているのかというところが僕らもわかっていないところがありまして、広報的なところをもっと打ち出していただけると、区役所は色々やってくれていると。僕らもPTAとしても協力できるところがこう協力していますという話をもっともっと広めていきたいというところではありますので、広報的なところをもっと拡充していただければと思います。

あと防災的なところでいきますと、中学生の防災をいま活動していただいているんですけども、地域と合わせた形の活動をできればしていただけると子どもたち単体というよりも、今後南海トラフが起こった時には、地域と協力した子どもたちの活動はどうしても必要になってくるという形になりますので、できれば連携した形の事業展開をしていただけるとありがたいなと思います。以上です。

○坂井議長

はい、笹田委員ありがとうございます。それに対してありますでしょうか、行政の方から。

○山田課長

旭区教育担当課長、山田でございます。企画調整担当課長を兼務しておりまして、広報等の担当もしておりますので、今いただきましたご意見の初めの広報の打ち出しについてご回答させていただきたいと思います。今年度につきましては、例えば、命の教育プログラム「リアルケアベビ体験教室」につきまして、広報紙の方にも掲載させていただいたりとか、報道発表資料等もホームページにもあげさせていただいているところです。また今年度から新たな取り組みで、広報紙の8面のところに「スクールだより」というシリーズを始めておりまして、各校長先生から地域の方へ直近の学校の取組等をご紹介していただいています。今いただきましたご意見につきまして、広報紙だけでなく色々な方法があるかと存じますので、検討させていただきたいと思います。どうもありがとうございます。

○坂井議長

ありがとうございました。はい、大前課長お願いいたします。

○大前課長

はい、防災担当課長の大前です。笹田委員、貴重なご意見ありがとうございました。今年度につきましては、コロナ禍でもありまして、地域の防災訓練等々もなかなか開催できていない地域が多いんですけども今後そういったことも配慮し、幹事校長の辰巳校長先生や小学校の幹事校長先生ともご相談して、また地域とも相談してできるだけそういった地域と合同と言いますか、一緒にそういった災害を想定しての訓練等をできればなど考えておりますので、現場と調整して実現に近づけるようにちょっと頑張ってみたいと思います。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。笹田委員よろしいでしょうか。

はい、では他ございませんでしょうか。はい、区長さん、よろしくお願いいたします。

○東中区长

笹田委員にお話をいただきました地域の皆様と、それから生徒児童の皆さん合同の訓練ですね。地域ごとの防災の訓練といいますかシミュレーションにそのエリアの学校さんを挙げて入っていただくとか大がかりな訓練になればかなりリアルなんだろうけれど、これはいまコロナのこともありますのと、やはり学校さんのカリキュラムの組み立てとうまく地域の皆様もまたご予定の組み立てがあうかあわないかという、ちょっと微妙に難しいところなのかなと思います。とは言うものの、たとえば地域さんの方で、されるところに、例えば生徒さんの、誰かが入っていただくとか、逆にあるいは学校さんの方でされる訓練の方に地域さんの方からどなたかが入っていただくとか、少し限定的なクロスにはなると思うんですけども、バラバラということではなくて、お互いにもう少し意識し合えるような試みというのを、またご相談させていただきながら考えさせていただきたいなと思います。特にここは淀川と寝屋川水系のそばでございますので、今後そういうところが徐々にもっと必要になってくるかなと思っております。ご指摘ありがとうございます。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。ほか、ございませんでしょうか。

すみません、私議長ですけど質問してもよろしいでしょうか。議長の坂井でございます。資料1の令和3年度の事業概要の横の予算のところの数字の下に括弧の数字があるんですけども、所要一般財源っていうご説明なんですけど、例えば1個目の、発達障がいサポートとかは一緒ですよ。ところが例えばあさひ学び舎とかは倍近く違いますよね。そのあとの育み事業も。そのへんがある程度近い数字のと、かなり離れているのがどうということなのかちょっとわからなくてご説明いただけたらと思うんですけども。

○山田課長

企画調整担当課長の山田でございます。上の段が、歳出額で下段が所要一般財源になっておりまして、その差は国庫補助金等別の財源が入っているということになります。よろしいでしょうか。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。分かりました、ありがとうございます、

はい。委員の皆様もご質問ご意見等ございませんでしょうか。向井委員いかがでしょうか。

○向井委員

すみません。旭区子ども会の向井と申します。よろしくお願ひいたします。

今回、9番目のところのこどもサポートネット事業というのは、区のCMということでご説明の方がなかったんですけども、ちょっと昨年もお質問はさせていただいたんですけども。昨年同様、コロナの方が全然収束してなくて、学校の方で家庭訪問をしながら、スクリーニングシートというのを記入いただいて、それによってまた分けていって会議を開いてあといろんなところに繋げていくというふうにご説明を受けたんですけども、この進み具合というか、どういった形で進んでおられるのかまた教えていただきたいかと思ひますので、よろしくお願ひします。

○佐野課長

わかりやすく言ひますと、学校はもともと、学校の中で教職員の負担が非常に大きくなってきています。子どもたちは家庭でいろんな問題を抱えているので、本来学校は学業を教えているところですが、それに付随していろんな忙しい仕事が学校の中であって、学校側だけでは、学内だけではちょっと解決できない問題もあるのではないかとということ。前の吉村市長が学校を助けようということ、学校側と言うより行政側の思いとして助けるサポートをしよう。それは何故でできたのかということ。平成28年度に学校の子どもたち、家庭に対して貧困調査をしました。そこで分析されたことが、本来学校だけでこの問題が片付く問題ではないことがたくさんありました。社会資源の活用とか社会福祉的な要素とか、いわゆる学校のスキルだけではとても手に負えない子どもたちに家庭環境の課題がたくさんあるということがわかったために、それで行政側の方で福祉エリアの方で助けるものを作れないかということ。サポート事業というものを考えました。ただ、そこには少し惜しいことに学校側の負担を軽減すると言ひながら、学校側の中身のニーズを全部、何百個って何千個ってあるニーズを汲みとるのではなくて、我々のプロダクトアウトというのですかね、我々の想像でこういう事業があるのではないかと作ったために、制度設計的に学校側に負担を強いる部分もあります。というのは先生方が本当に忙しい中にスクリーニングシートを全部書き込むとすごい項目です。それ全部書いて仕上げて学校側で会議やってそれでピックアップして学校側の問題だけで解決できる生徒や、区役所や他の外部の社会福祉資源がある人を分けるという作業をした上で、グレードもあって、そこでスクリーニング会議をやって、毎月やりなさいとか、そんなものもあります。たまたま当区の担当が元々教育委員会にいたこともあって、学校側に負担になってははいけないということで、我々学校側サイドにも少しずつアクセルを踏みながら学校側さんの中で気づいたところをこどもサポート推進員とSSWが直接学校に行って、聞いてきて、それでスクリーニング1に変えて、そこで課題となったものをスクリーニング2にして、その中で問題があった家庭について我々区役所側に

引き継ぐということで、例えば療育事業というのを紹介したりだとか、他の社会資源につないでいく事業です。始まったばかりの事業なので学校側、学校運営の中にもちよっと戸惑いもある中で、また、学校は地域によって全然違いますので、校長先生によっても考え方も違うので、色々とすり合わせながら今ようやくなんとなく形が出来てきているところなので、成果という成果は、今はそれほどないのですが、当区として、今までも小学校・中学校と要保護児童対策地域協議会で子育て支援室は、がっちり学校と一緒に取組んできましたので、当初このサポート事業と要対協が混同される学校もあって、結構わかりにくい事業になっていました。それが今ようやく少しずつ学校側さんとのすり合わせもできてきて、例えば、あるケースをこう繋いでほしいということになればそれを繋いでいくとかを学校側と相談してやっています。具体例では、高校に進学したくないという生徒がいましたが、学校側もその生徒に進学を助言しますがなかなか難しいということで、うちのサポート推進員が行って話を聞いた上で子どもさんを説得して、その子どもさん、「あっそれやったら僕、高校受験するわ」と言ってくれたケースとか成功例も少なからずあります。ただすべてがすべて解決できているわけではありません。すみません、まだ始まったばかりの事業なので申し訳ありません。

○向井委員

はい、向井です。ありがとうございました。

○坂井議長

ありがとうございます、他ございませんでしょうか。

副議長の清家さん、いかがでしょうか。

○清家副議長

副議長の清家です。こども食堂の活動が広がってきて各校区に1つずつあるんですけど、私たち民生委員児童委員としてどんな支援ができるかなって思うんですけど、なかなかその食材を提供したりとか、そこまではできないけれども、何かこう支援ができることがあれば教えてもらいたいなと思います。

○佐野課長

こども食堂自体は自立していますので、やっぱり物資が足りないということです。あと学習、12か所あれば12色違っていきまして、考え方もまったく違ってきます。日本では、ここ数年で、こども食堂が爆発的に当初の30倍近く増えていて、この数年だけでも5倍、6倍と増えています。それは何故かと言うと、やっぱりゆるキャラと言いますか、「ねばならない」というのではなくて、今、こども食堂をしましよつと云った人がこども食堂を作るという、すごくゆるいネットワークの中で、広がっていきま

なので、やっぱり千差万別です

それで、できれば参加する子どもさんとかを紹介してあげるのが一番良いのではないかと考えています。別に経済的に貧しいとかそういう関係ではなく、居場所です、信頼できる大人がいて、それが地域におるということを知ってもらっただけでも子どもにとってはすごい大きな成長になりますので、ぜひ貧困とか関係なく子どもの居場所としてご紹介いただければ、と思います。よろしくお願いします。以上です。

○清家副議長

ありがとうございました。考えてみます。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。

まだご発言のない、林委員いかがでしょうか。

○林委員

林でございます。ずっと聞かせていただいて、それぞれいい事業をされてるなっていうので、また応援させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。

池田委員、何かございませんか。

○池田委員

旭区青少年指導員連絡協議会の池田です。私も皆さん、すごく子どもたちのためということで色々していただいて、私たちも地域でお手伝いはさせていただいているんですけども、なかなかやっぱりコロナ禍の中ということで行事もうまくいけてない何とかこなしているという感じの中で、そのこなせてるのも皆さん方のご協力の中でのことだと思ってすごく感謝しています。青少年指導員は一応中学生以上が対象ということでさせていただいてるんですけども、先ほどもちょっとこども食堂の件でお話があったんですが、この利用されてる子どもたちはやっぱり小学生が多いんでしょうか、中学生以上の方の利用ってあるんでしょうか。

○佐野課長

中学生も受け入れているところも、たくさん参加しているところもあります。数はそんなに多くはないんですが、12か所中、3か所くらいあります。

○池田委員

はい、ありがとうございます。その子たちを何か地域でもっと他に支援できることと
かもしあれば、また教えていただいたら青少年指導員の方でまたお手伝いできることが
あればさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

○佐野課長

その節は、よろしくお願いします。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。ほか委員の皆様、何か言い足りないこととかございま
せんでしょうか。よろしいでしょうか。

はい、区長さんどうぞ。

○東中区長

すみません、今日の議題から外れますが、青指さんの池田さんのご活動の賜物という
ことでご報告をさせていただきたいんですけど、先だって二部制に分けて、区民ホ
ールで立派な成人式が、青指さんの運営、特に新成人の若者たちから自ら志願して運営
にあたっていただきました。立派な誓いの言葉も述べていただいて。

また、この間の土曜日は去年中止になった、去年の成人の若者たちの一年遅れのU S
Jで成人式がございました。U S Jもちょうど設立20周年ということでした。その中
で旭区からもたくさん若者が出席してくれました。最後に若者の代表で誓いの言葉を言
ってくださるんですね。旭区から高橋君と藏本君が立派に誓いの言葉を言っていただき
まして、司会のプロの方が、立派な誓いだったので就職の際はこっち側来てくれと最後
言ってくれるほど大変立派なスピーチをしていただきました。特に、大阪市旭区高橋、
大阪市旭区藏本、大阪市旭区から我々新成人を代表してって大阪市旭区をたぶん5・6
回ぐらい言ってくれました。本当に立派な若者がこの旭区から大阪市全体に名前を轟か
せていただいて、本当に青少年指導員連絡協議会さんのご活動のおかげでございませ
んし、地域とか学校さんをあげての子供たちの見守りというのが、子供たちに、若者
たちに届いてるんだな、旭区愛がすごく強い若者たち、そう感じました。大変印象
的でございました。すみません、ちょっと議題とは直接外れるんですけど、成人式で
そういうことがありましたというご報告、お時間いただきましてすみません、ありが
うございます。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。

昨年の子たちは1年待った甲斐があつて、ちょっと記念すべき成人式になったんじや
ないかと思います。青指の皆様ご苦勞様でした。

そうしましたら次第の議題1の方はもうよろしいでしょうか。もうご意見無いようでしたら2番のその他に入らせていただきます。その他につきまして事務局の方から何かご提案ございますでしょうか。

○山田課長

教育担当課長山田でございます。議題2その他につきましては特にございません。

○坂井議長

はい、ありがとうございます。そうしましたら本日の議題についてはすべて終わりました。ここで最後にはなったんですけども、本日非常にご多忙の中、教育委員会の指導主事の方、校長先生に来ていただいております。今このコロナ禍で一番現場に立ってご苦労されている立場の方々です。すみません、最後にご意見いただけたら何でも結構ですので、お一人ずつちょっと発言をお願いしたいと思います。そうしましたらまず小学校の松下校長先生よろしくお願ひいたします。

○松下校長

失礼します、こんばんは。古市小学校の校長の松下と申します。

まず、はじめにこの場でなんなんですけども、新聞等でも報道されておりました学校の名前が出ている新聞もありましたので、この場をお借りいたしまして、一言お詫びを申し上げたいと思っております。先日、保護者説明会の方を持たせていただいております。本当に日頃から皆様にお支えいただいております本校にとりまして、たいへん皆様に申し訳のないことだと思っております。どういった対応をしていけばいいかということの色んな方からご指導をいただいております。とにかく今後の対応をしっかりと取り組んでまいりたいと思っておりますので、また何かお気づきのことがございましたら、教えていただければと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

今日色々とお話しいただいている中で、本当に日頃からいろんなところで小学校も中学校も含めまして、旭区に私も来させていただいて3年目になるんですけども、本当に学校の教育については手厚くご支援をいただいておりますし、このコロナの状況でありましても、どういう対応であったり、いろんな緊急の対応についても区役所の方から佐野課長さんからいろんなご指導いただいたりしております。ほんとにありがとうございます。

令和3年度の事業もコロナの中で工夫してやっていかないといけないところもありましたけれども、そのことを踏まえて令和4年度の小学校についてはプログラミングということで、新しい取組も入れていただいておりますので、ぜひそれがまた来年度予定通り行う状況になればなと思っておりますので、今非常にまた厳しい状況ではございませけれども、今後ともどうぞご指導いただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願

いたします。どうもありがとうございました。

○坂井議長

はい、ありがとうございました。続きまして中学校の方から辰巳校長先生お願い致します。

○辰巳校長

はい、失礼いたします。旭陽中学校の辰巳でございます。私からはこの今年度リアルケアベビー体験という事と防災の方と2つ、取組をやらせていただきました。本当に私どもも、もちろん従前から、性教育であったりとか防災教育であったりとかも学校独自に、教員が汗かいて色々考えるんですけども、やはり展開できるその中身については限度があります。素人が考えてるところの部分もありますので、そういう意味で、今回は本当に貴重なご機会いただきまして中身の本当に濃いものになったなと思っておりまして、現場も最初は引いてる部分はあったんですけど、でも、いい機会なのでやりましょうということで取り組んで、一緒に取組させていただいた結果、教員も最終的には喜んでいました。「あっ、こんなふうなやり方があるんや」とか、やっぱり学校では、例えばリアルケアベビーのAI人形ちゃんを買えないので、そういうものを触らせていただいて、実際子供らが触っていたときに本当に、こんなふうに子育てしてたんやなっていうことが少しでも垣間見えたということで、子どもたちの成長のチャンネルがまたひとつでも増えたらなと私どもも思っていましたので、本当に今年、今年度については、非常にありがたかったなと思っております。

今日は事業の説明の中で、また学校といろんなことを協議しながらということでお言葉をいただいていますので、私どもも学校からいろんな意見を上げていきながらまたすり合わせていって、より良いものを作っていけたらなと思っております。どうぞ今年度、そして来年度もよろしく申し上げます。ありがとうございました。以上です。

○坂井議長

はい、辰巳先生ありがとうございました。

続きまして、本日コロナ対応でお忙しい中、教育委員会の中学校担当の指導主事の松本様駆けつけていただきましてありがとうございます。すいません。一言お願いいたします。

○松本指導主事

すいません、失礼いたします。教育委員会指導部第二ブロックの中学校を担当しております、松本と申します、平素より教育活動にご理解ご協力いただきましてありがとうございます。

言うまでもなくなんですけれども、日々コロナ対応ということで、旭区でも佐野課長はじめ、多分土日もなく対応に追われているというふうなことも想像するに難くないことなんですけれども、教育委員会の方にも小学校中学校から日々陽性の報告、一報が入ってくる次第でございます。特に今週に入って3学期が本格的に始まってからは、もう想像を絶する数の報告が入ってきておりまして、以前では陰性でしたという、ほっとする声がたくさんあったんですけれども、もう今々はほぼほぼが陽性であるというようなことで、ではこのあとどうしましょうかということで、校長先生、教頭先生の学校の対応そのものによって何かを一緒に共有させてもらいながら、適切にご対応いただいているというような状況でございます。

またそんな中でも、コロナ対応以外の様々な事案対応でありますとか生徒指導等々におかれまして本当に先生方精一杯、もう限界を超えているんじゃないかなと思われるような状況が電話越しにも想像できるような状況があります。私の他にも今日、小学校の荒井の方がまだちょっと対応が続いておりまして、出席に至らないんですけれども、どの区も、本当に非常に多くの対応に追われているというような状況がありまして、何とか早く、終息につながらないかなと思いつつ、そんな中でも教育、学びを止めないというような方法を何とか学校の方で進めていただきたいというようなところで、臨時休業であったり、臨時下校であったり、休校措置であったりとかいうようなことがこの間もずっとあるんですけれども、何とか学びをつなぐ、学びを止めないというような方向性を持って、子どもらの教育の場を少しでもというような分は、今後も続けていけるよう、なかなか休校・下校というようなところで、子どもらのストレスもたまるでしょうし、学びもすごく大きな影響が出ている現状がなんとかならないかなというふうに日々思っている次第でございます。

今いろんな旭区の事業を見てる中で、本当に子どものために子どもの成長につながる事業・取組が展開されているように伺っております。我々も何とかこんなコロナ禍ですけれども、そういったところに少しでもご協力できたらなというふうには思っているところではございますけれども、また今後ともコロナ対応だけではないんですけれども、少しでも教育現場っていうのは地域の人との連携、関係機関との連携に尽力してまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。本日は貴重なお時間ありがとうございました。

○坂井議長

はい、松本様ありがとうございました。

すみません、本日ちょっとお時間が過ぎて、予定の時間を過ぎてしまいましたが、コロナの感染拡大の中での開催となりまして、本当にご迷惑かけて申し訳ございません。

今、指導主事の松本様からお話がありましたが、子どもの学びはこんな中でも止めることができないと感じております。どうぞ子どもたちの輝く未来のためにここにいら

っしやるご参会の皆様の今後の子どもたちへの支援をお願い申し上げたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、すみません。つたない議長で申し訳ございませんが、議長の任をこれで終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。事務局の方にマイクを返させていただきます。

○田窪係長

坂井議長、進行ありがとうございました。清家副議長をはじめ委員の皆様もありがとうございました。それでは、区長からお願いいたします。

○東中区長

何度も申し訳ございません。新しい議長、副議長、本当にありがとうございました。また地域からお越しいただいている皆さん、貴重なご意見いただきまして大変ありがとうございました。また教育委員会事務局さんにおかれましても、普段から非常にサポートいただいております。特にブロック制ということで、この専任の部長さん、そして指導主事さん、さまざまなサポート体制がこれまでとは違う形で市の本局の市教育委員会事務局の方と直接つながってお話をさせていただけるということで、色々なフォローをいただいております。感謝を申し上げます。

それから辰巳校長先生からもお話がございました、やはりこの子供たちにとって良かれということをお我々行政も思っております。と言ってそれが学校さんへの押し付け、一人よがり、負担のいたずらな増につながっては元も子もございませんので、どういう形で子どもたちにとっていいのかということをご意見を交換をさせていただきながらよりよい形で、また来年度もいろんな事業をさせていただけたらなと思っております。小学校さんにおかれましても一緒でございまして、今後とも協議、連携しながら進めさせていただければなと思っております。

それから松下校長先生の方でお話がございました。学校さんともとにかくいろいろご相談させていただきながら、この多彩な施策を進めさせていただきたいなと思っております。

そしてなんといっても地域の皆様方の本当にこの温かい見守りがこの旭区の本当に特色でございます。皆様方の見守りというのはいろんなチャンネルがいくつもあるかと思っております。そういういろんなチャンネルが多彩に動くことで子どもたちの繋がる場、居場所、見守るチャンネルというところがより広がっていけば、この旭区の温かさ、子どもたちの安心安全教育というのがより良いものになっていくのではないかなと思っております。地域の皆様方におかれましても、いろいろお忙しい中とは存じますが、どうか今後ともお力添えを賜りますよう感謝と共にお願いを申し上げます。今日も本当に忙しい中、貴重なお時間とお話をいただきまして大変ありがとうございました。

○田窪係長

それではこれもちまして、本日の第1回教育会議を終了させていただきます。お気をつけてお帰りください。ありがとうございました。